

潮間帯の生物

足羽中学校 1年 小林由紀夫

2年 高橋克也

1 採集月日 1968年7月30～31日

2 採集場所 福井市管生町

3 目的

博物館主催の海産動物採集会に参加させてもらった時であった。海をのぞいて、横浜大学の酒井先生のお話の通り海底をながめてみると、今までと違った美しい海の景色に見とれてしまった。どうして、こんな美しい海に気が付かなかったのか。陸上では見られない変な形の動物があっちにもこっちにもいるのか、ふしきだった。私たちが水にもぐった時、花火のようにいや、それよりも美しく七色に光る花のようなものが開いて動くのが見えた。指先で、ちょっと触ってみたところ、パッと、消えてしまって、後に灰褐色の筒だけが残ったので、変だなこんなごみみたいなものではなかったがな、と思ってそのまま行こうとして、もう一度見直すと、その灰褐色の筒の中から、花火のようなものが、またててきた。ごみでなくて動物だということがわかった。あとで調べると、ケヤリムシであった。このように海水中の動物も、敵から身を守るために、いろいろ変わった形をしているのがわかった。海の動物は、陸上の動物よりも下等であるが、陸上の動物のように、やはり、共生もするし、寄生もしている。しかもみんな、それぞれ、自分に最も適応した場所や位置をえらんで生活していることも、採集してみてわかった。

そこで、採集会にいって、私たちがわかったことや、実際に、海水中の動物はどんなところに生活しているか調べたことを報告したいと思う。

4 結果と考察

海産動物を採集してわかったことを話し合ってまとめてみたのが次のことである。

- 1 海の動物たちは、おたがいに住みかや、食物関係でつながり合いを持ち、食べ合いをする一方、助け合いもある。
- 2 節足動物では、陸上の動物に似た点が多いが、一般にからだが柔らかく多種多様である。
- 3 岩礁性の潮間帯では海底が複雑で凹凸があり、岩の間や、下にも非常に多くの生物が住んでいた。

4 岩の間や、下やタイドプールなどに住む動物は、住んでいる所に最もよく適応しているものが集まって生活している。

以上のことから、私たちが採集したものを、住んでいる所によって分類してみた。分類してそれらの動物を並べてみると、何か共通した点を持っているように思われた。

以下にのべる、I , II の場所と、そこに住む動物の種類をあげると次のようになった。

<住んでいる所>

I タイドプール

- | | |
|--------|-------------|
| A 海面上 | C 岩のくぼみやすき間 |
| B 岩の表面 | D 岩の裏と下 |

II 潮間帯

- | | |
|-------------------|--|
| B 岩の表面 | |
| C 岩のくぼみやすき間 | |
| D 岩の裏と下 | |
| E 深い岩の少ない海底 | |
| F イシゴロモの中に住んでいたもの | |
| G 海藻の中に住んでいたもの | |

<住んでいる動物の種類>

I A (海面上) I B (岩の表面)

カクベンケイ	クモハゼ	マグラアメフラシ
イソガニ	ハゼ	カバホシダカラ
ホンヤドカリ	キヌバリ	クラケトラギス
ウスヒザラガイ	ピラガイ	ホソウスヒザラガイ
カメノテ	イボニシ	
フナムシ	ヨコエビ	
	アメフラシ	

I C (岩のくぼみ又はすき間)

ムラサキウニ	メジナ	カメイン
ヨコエビ	イソガニ	ヤマトヤドカリ
ハゼ	ヒライソガニ	ミドリイソギンチヤク

I D (岩のうらと下)

ヨコエビ	ゴカイ	ウスヒザラガイ
イソガニ	セルクラ	キソウスヒザラガイ
チグサガイ	カイメン	テツイロイソギンチャク
ウロコムシ	クロイソカイメン	

II B (岩の表面)

カラスボヤ	アカウニ	ムラサキカイメン
イソカイメン	アカヒトデ	ムラサキウニ
ヤツデヒトデ	イトマキヒトデ	スゴガイの1種
オオヘビガイ	ミドリイソギンチャク	

II C (岩のくぼみ又はすき間)

ムラサキカイメン	アカイタボヤ	コケムシの1種
オオヘビガイ	チヤツボカイメン	カメノテ
イソカイメン	クロイソカイメン	イソガニ
ムラサキウニ	ニシガイの卵	カラスボヤ
ヌノメイトマキヒトデ	イガイ	チグサガイ

II D (岩のうらと下)

ユズダマカイメン	セルクラ	オオヘビガイ
ミノウミウシ	バフンウニ	ホソナガイソカイメン
ゴカイ	ウミヒラムシ	ヤスデウロコムシ
チグサガイ	コツブムシ	

II E (深いところにいるもの)

コウイカ	メジナ	シマイシガニ
------	-----	--------

II F (イシゴロモの中にいるもの)

フトユビシヤコ	チビウミセミ	イソコツブムシ
ヨコエビ	ゴカイ	ガンセキフサゴカイ
ツノダシヤワラガニ	ウミセミ	

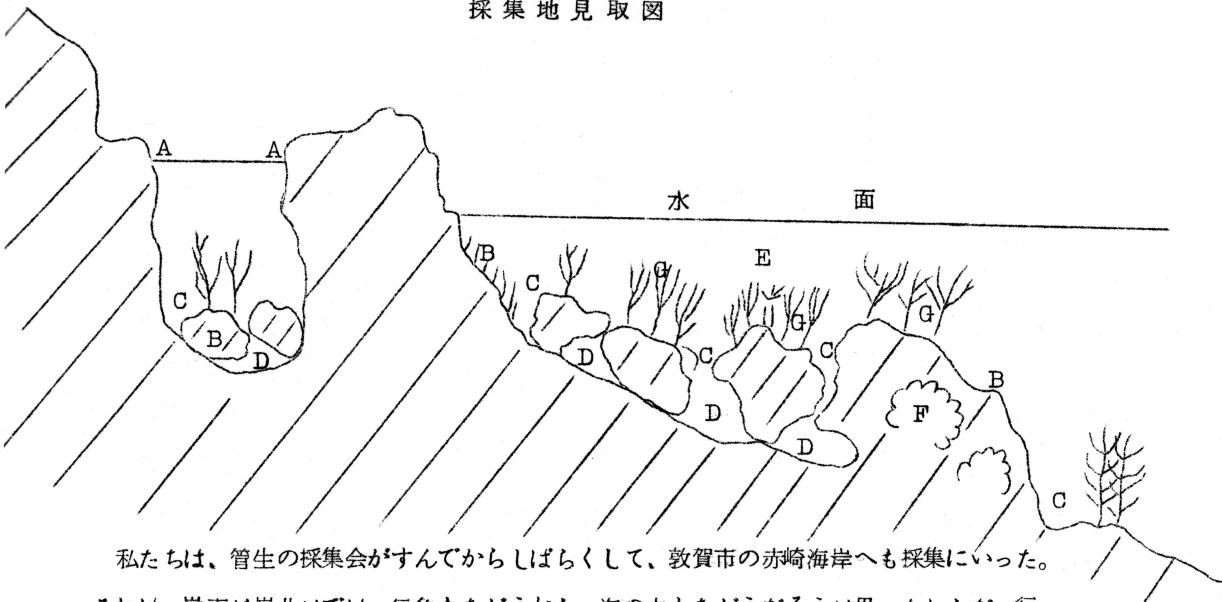
II G (海藻の中にいるもの)

コブコケムシ	ムラサキカイメン	ヤワラガニ
ヤドガリ	ウミグモ	ホンエダアカヤギ
ヨコエビ	サンゴモ	テツイロイソギンチャク
アメフラシ	ウスヒラムシ	スダレアカヤギ

種類別数

類	別	I (種)	II (種)
イソギンチャク類		2	2
ホヤ	"		3
カイメン	"	2	5
ウニ	"	1	2
ヒトデ	"		4
ゴカイ	"	2	8
アメフラシ	"	2	3
ヒザラガイ	"	4	
貝	"	3	7
ウミセミ	"		2
シヤコ	"		1
エビ	"	1	
カニ	"	5	6
その他		4	3

採集地見取図



私たちは、管生の採集会がすんでからしばらくして、敦賀市の赤崎海岸へも採集にいった。

それは、嶺南と嶺北とでは、気象もちがうから、海の中もちがうだろうと思ったからだ。行ってみて、赤崎は、雪が少なくて暖かいせいか、海藻も豊富だったし、暖地帯の生物も多かったようだ。もう一つ大きくちがうところは、岩の性質が全く違っていたことである。だからそこに住む生物も、くわしく比較すると、もっと違いが出てくるように思えた。採集会に参加させてもらったことを機会に、これからも、もっと学びたいと思う。

採集会のお世話を下さった、博物館の先生方や横浜国立大学の酒井先生ありがとうございました。